



鶴ヶ峰地域

高齢者、障害者の作業所等が数多くある地域です。



人口 26,503人



6歳未満児数(率) 1,250人(4.7%)



世帯数 11,650世帯



高齢者数(率) 5,389人(20.3%)



出生数 229人

鶴ヶ峰地域ケアプラザ地域

懇談会開催日

- 第1回目 平成16年10月2日
- 第2回目 平成16年11月14日
- 第3回目 平成17年1月15日



地域の主な福祉保健活動

- ◆ 子育て支援(かるがもサロン)
- ◆ 鶴ヶ峰地域ケア部事業(在宅福祉)
- ◆ 鶴ヶ峰地区ふれあいサロン
- ◆ 多世代鶴ヶ峰駅伝競走大会



支えあい連絡会開催日

- 第1回目 平成17年5月27日
- 第2回目 平成17年8月1日
- 第3回目 平成17年9月15日
- 第4回目 平成17年11月9日
- 第5回目 平成17年12月16日

様々な取り組みや活動の中から、子育て支援、高齢者・障害者支援、世代間交流の3つの視点で主な活動を掲載しています。

当面取り組む地域の課題

● 地域で障害児や障害者、 高齢者を見守る

地域懇談会で、これらの課題から取り組むことが話し合われました。

地域での具体的な取り組み

取り組みの目標・テーマ

地域を見守るおおらかなまなざしを育てる

取り組みを進めるにあたっての大切にしたい点

障害児者も安心して地域に出られるよう、明るく受け止められる関係づくりが必要です。
障害児者やひとり暮らし高齢者などで閉じこもりがちになる人に、周辺住民が、根気よく対話する機会をつくることが求められています。

具体的な取り組み

- 多様な地域情報伝達の仕組みを作り、
地域について話し合う場や機会を設ける。
- ふれあいサロンを広げる。
また、同時にボランティアの育成にも積極的に
取り組んでいく。



懇談会参加者

地区社会福祉協議会関係者	民生委員・児童委員
保健活動推進員	体育指導委員
青少年指導員	消費生活推進員
環境事業推進員	交通指導員
ボランティアグループ	障害者施設関係者
商店街組合会長	中学生
中学校教員	

目標 テーマ

地域を見守るおおらかなまなざしを育てる

大切にしたい点

高齢者や障害児者の存在を地域で明るく受け止め、対話する機会を根気よくつくる
障害児者も安心して地域に出られるよう、明るく受け止められる関係づくりが必要です。障害児者やひとり暮らし高齢者などで閉じこもりがちになる人に、周辺住民が、根気よく対話する機会をつくることが求められています。

課題

地域で障害児や障害者、
高齢者を見守る

- ◇障害児者は閉じこもり傾向になってしまう場合がある
- ◇地域との関わりを持つことが必要

目標 テーマ

既存の組織を活用・発展させて
対話の機会や場を創る

大切にしたい点

誰もが参加できる話し合いの場や機会をつくり、既存の組織を活かして地域情報を発信していく
地域の問題を語り合える場をつくり、地域情報を住民みんなが共有する機会をつくる必要があります。このために既存の組織を活用して、情報を発信し、この地域の課題を共有していくことが求められています。

課題

活動の担い手の負担軽減

- ◇自治会町内会活動の担い手が少なく、地域の役員が重複して個人の負担が大きくなっているとの一部の声がある

地域への参加意識

- ◇地域への参加意識が低い人が増加するなど、地域活動の継続が困難になりつつある

地域活動内容の伝達

- ◇地域活動の内容が地域の住民に伝わらないとの一部の声がある

課題、目標テーマ

目標
テーマ

地域住民としての自覚を育てる

大切にしたい点

個々の地域貢献活動への共感を地域全体に広げていく

地域での活動は当たり前という地域ぐるみの意識づくり、仕組みづくりが必要です。

そして、個々の地域貢献活動を通じて、周囲に地域住民として守るべきマナーの自覚を促していくことが求められています。

課題

地域内のコミュニケーション ◇地域内のコミュニケーションを図る

犯罪の増加、治安の悪化への不安

◇犯罪が増え、治安の悪化防止対策への継続的な推進を行う

G30の取り組みの周知

◇G30の内容を周知するよう今後も努力を図る

ごみ捨てのマナー

◇ごみ捨てのマナー向上が求められる

公園の維持管理

◇公園の維持管理が一層できることが必要

子どもの遊び場確保

◇子どもがのびのびと健全に遊ぶ場が必要

